

新学期が始まり新しいクラスを持って1カ月が過ぎた。子供たちは元気に登校している。

4月初めに校長から新入生の担任をしてほしいといわれた。一瞬、「今のクラスを持ち上がりたい」という思いが頭をよぎったが、私に寄せる信頼であると感じて、「わかりました」と答えた。というのも、新入生は小学校からの情報では、手のかかる子供たちが多いとのこと、だれが担任しても大変だと思っただからである。

新入生を受け持つに当たって、私はこの子たちの過去は一切関係ないとした。未来に向かって何をすべきか、担任として何ができるかを考えた。もちろん、小学校からの申し送り事項には目を通し、身体に関する

前全日教連委員長 三好祐司

麻乱答解



配慮事項は頭に留めた。しかし、それ以外の項目についてはあくまでも参考に留

新入生との1カ月

め、レッテルを張らないようにした。

入学式当日。新入生は新しい制服に身を包み登校して、入学式では私が読み上げる名前に対して大きな声で返事をしてくれた。これは大丈夫だという気持ちで、入学式後のオリエンテーションに臨んだ。

保護者と子供を前にして、私は話を始めた。その時、おもむろにバケツの中から流し台の水こしを取り出し、「みんな、これは何かわかりますか。教室の前の流し台の水こしです。さっき、はずしてここに持ってきたんです。すぐ汚れていきますね。こうやって、黒い汚れを落としていこう。みんなの心はピカピカに光っていますね。」

「ほら、きれいになったね。これは、君たちの心と一緒になの。この黒い汚れは、自分にはかたと思つくと、どうせなにしてもダメ

だと思うこと、少しぐらいさぼってもいいと思うこと、そんな考えなんだよ。人はだれでもそんな考えを出してしまっけど、こうやって磨けばそんな汚れは落ちるよ。こうやって、黒い汚れを落としていこう。みんなの心はピカピカに光っていますね。」

「ほら、きれいになったね。これは、君たちの心と一緒になの。この黒い汚れは、自分にはかたと思つくと、どうせなにしてもダメ

ている。そのためのキーワードは「ガマン・ユツコツ・ニツコリ」である。

この1カ月、規則を守るこの大切さやカツとなるときにグツとこらえる大切さを話した。ガマンする人間は立派な人間である。小さな努力を毎日積み上げ、よい習慣を身につける大切さを話した。よい習慣は立派な人間への第1歩である。そして、だれにでも穏やかに接してあげることも大切さを話した。春風のように温かに人に接することも立派な人間としての条件である。

5月初めの学級懇談会で、多くのお父さんお母さんが「子供が学校に行くのが楽しいと言っています」と言ってくれた。

どの子もみんな素直なよい子である。